

平成 26 年度

病害虫発生予報第 2 号

平成 26 年 5 月 29 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	12
5. 今月のトピックス(果樹カメムシ類について)	13
6. 気象のデータ	14
7. おしらせ	16

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、葉いもちの発生時期は**やや遅**、発生量は**平年並**と予想されます。イネクロカメムシの発生量は**やや少**、イネミズゾウムシの発生時期は**遅**、発生量は**やや少**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病(温州みかん)、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**と予想されます。黒点病、かいよう病(中晩柑)、ミカンハダニの発生量は**やや少**と予想されます。

ナシでは、ハダニ類の発生量は**平年並**、黒星病の発生量は**やや少**と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**多**と予想されます。特にこの時期は、ナシ、モモ、ピワ、カキなどが加害されるおそれがありますので、園地をよく見回って、飛来の状況を確認してください。

3) 茶

チャでは、炭疽病、もち病、カンザワハダニの発生量は**平年並**、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**、チャノホソガの発生量は**少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は**平年並**と予想されます。うどんこ病の発生量は**やや少**と予想されます。

ネギでは、ネギコガの発生量は**平年並**と予想されます。

野菜共通では、コナガの発生量は**やや少**と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	葉いもち	やや遅	平年並	小	普通	置苗で発生 ↓		本田で発生 ↓		<ol style="list-style-type: none"> 1) 補植用置き苗は発生源となるので、速やかに除去し、枯死させてください。 2) 本田粒剤による予防は、初発前に行ってください。 3) いもち病発生予測支援システム(プラスタム)において、感染好適条件の現れた7~10日後に初発が予測されます。 4) プラスタムの最新情報は、病害虫防除所ホームページで随時更新しています。
	イネクロカメムシ	—	やや少	小	低		成虫誘殺数 ↓		被害量 ↓	<ol style="list-style-type: none"> 1) 常発地で薬剤散布する場合は、越冬成虫の発生量がピークになる6月下旬に実施してください。
	イネミズゾウムシ	遅	やや少	小	低	成虫誘殺数 ↓				<ol style="list-style-type: none"> 1) 株当たり0.5頭以上の成虫が発生していれば、防除してください。
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	普通	葉・枝 ↓		果実 ↓		<ol style="list-style-type: none"> 1) 梅雨明けまで、幼果に感染します。 2) 6月以降は新芽や幼果の病斑から二次感染するので、発生している園地では、予防散布が重要です。
	黒点病	—	やや少	小	普通	発病密度 ↓				<ol style="list-style-type: none"> 1) 生理落果盛期~後期に予防散布を実施してください。 2) 上記薬剤散布後、積算で200mm以上の降雨があったら、次の防除を実施してください。 3) 枯枝が伝染源です。梅雨時期の枯枝発生に注意し、樹冠内や圃場内の枯枝を除去して下さい。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月		6月		
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	かいよう病	—	温州 平年並	温州 小	温州 低	<p>発病密度</p>				1) 旧葉で越冬病斑が見られる圃場では、新葉や幼果での発病を防ぐため、感染を助長する降雨等の気象条件に注意し、ボルドー剤による予防防除を実施してください。 2) 越冬病斑が見られない圃場でも、本病に弱い品種(カラ、セミールなど)では、幼果への感染防止対策として、予防散布を実施してください。 3) 中晩柑類では、梅雨期頃から10月中下旬頃まで、果実への感染が起こります。
	ミカンハダニ	—	やや少	小	普通	<p>雌ダニ密度</p>				1) 梅雨期は薬剤散布のタイミングが取りにくい時期です。マシン油乳剤等を有効に利用する散布を計画して下さい。 2) 冬期防除が実施できなかった等により発生密度が高い圃場では、散布ムラのないように十分に薬剤散布してください。 3) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤使用は年1回としてください。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	小	普通	<p>成虫密度</p>				1) 例年被害の多い圃場では、6月上旬～中旬に防除し、その後は30日間隔を目安に次回の防除を行ってください。
ナシ	黒星病	—	やや少	小	普通	<p>発病密度</p>				1) 圃場内をよく観察し、発病が認められる場合は速やかに防除を実施してください。 2) 発病葉は発見次第取り除き、圃場外へ持ち出して処分してください。 3) 薬剤散布にあたっては、同一作用性を示す薬剤の連用を避けてください。
	ハダニ類	—	平年並	小	普通	<p>雌ダニ密度</p>				1) 防除の目安は成虫の1葉当り寄生頭数が1頭以上の時です。 2) 殺ダニ剤に対する抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の使用は年1回としてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						5月		6月		
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ブドウ	べと病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 雨が続くと急激に発生が広がります。降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。 2) 葉裏をよく観察して、病斑を認めたら、直ちに防除を実施してください。 3) 被害葉、被害果穂は、発見次第取り除いて、圃場外に持ち出し処分してください。
果樹共通	カメムシ類	—	多	大	高					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫発生予察注意報第1号(5月21日発表)。 2) 降雨がなく気温の高い夜に飛来が多いので、夜間の街灯に注意したり、圃場を見回るなどして、早期発見に努めてください。山林に近い圃場では特に注意が必要です。 3) 薬剤散布はカメムシ類の飛来を確認してから実施してください。 4) 果樹カメムシ類は夕刻から活発に飛翔するので、朝夕の薬剤散布が効果的です。近隣圃場で調整し、広い範囲で散布日を合わせて一斉防除することにより効果が高くなります。 5) 合成ピレスロイド系の薬剤を連続して散布すると、ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多くなる傾向があるので注意してください。
チャ	炭疽病	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 降雨と適温(25℃前後)が揃うと柔らかい新芽に感染します。 2) 旧葉に病斑葉が多いところでは注意してください。 3) 窒素が多いところでは発病しやすくなります。 4) 開葉初期に防除しましょう。
	もち病	—	平年並	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 山間地など日陰になりやすいところでは、降雨により感染が多くなります。 2) 萌芽期に防除しましょう。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比 程度		要防除圃場率 平年比	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	カンザワハダニ	—	平年並	中	普通					1) 葉裏に寄生し、新葉の寄生が多くなると落葉しやすくなります。 2) 世代交代が早く、急増することがあるので、発生密度の低い時期に防除しましょう。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けましょう。また、天敵への影響の少ない薬剤を選択しましょう。
	チャノホソガ	—	少	小	低					1) 第1世代成虫の発生状況は病害虫防除所のホームページを参考にしてください。 2) 防除適期は孵化直後の潜葉期(絵描き状態)です。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	やや少	小	普通					1) 新芽が加害されると先端から褐変し落葉しやすくなります。 2) 萌芽～開葉初期に防除しましょう。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	低					1) 新芽が加害されると基部から褐変し落葉しやすくなります。 2) 萌芽～開葉初期に防除しましょう。
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	中	普通					1) 今後1か月は感染しやすい時期です。圃場をよく観察し、早期発見に努め、発病葉は適切に処分してください。 2) 育苗圃で発生が多いと本圃でも多発するため、親株の時期から薬剤防除を徹底し、健全苗を育成してください。 3) 薬剤耐性菌を生ずる恐れがあるため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月		6月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
イチゴ	炭疽病	—	平年並	中	普通					<p>1) 高温・多湿条件で発生しやすいため、今後の梅雨・高温期にかけては注意が必要です。</p> <p>2) 薬剤による予防防除を徹底してください。</p> <p>3) 罹病株は感染源となります。見つけ次第速やかに除去し、圃場外に持ち出して処分してください。</p> <p>4) 水滴の跳ね返りによって病原菌が広がります。灌水時は、跳ね返った水滴が茎葉に当たらないよう注意してください(やさしく手灌水、チューブ灌水)。</p>
ネギ	ネギコガ	—	平年並	小	普通					<p>1) 春から秋にかけて4～5回発生します。</p> <p>2) 幼虫が葉の内部に潜り、表皮を残して食害します。そのため、潜入防止のための早期防除が重要です。</p>
野菜共通	コナガ	—	やや少	小	普通					<p>1) 近年、大きな被害は見られませんが、繁殖力が旺盛なアブラナ科野菜の重要害虫です。</p> <p>2) 中、老齢幼虫になるに従い、殺虫効果が低くなります。若齢幼虫のうちに防除してください。</p> <p>3) 薬剤抵抗性の発達しやすい害虫であるため、同一系統薬剤の連用は避けてください。</p>

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	やや遅	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (発生時期+、発生量-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、置き苗での発生率0%(5年平均0%)、本田での発生圃場率0%(5年平均0%)と、平年並に少ない傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無~平年並(概して平年並に少) (±)</p> <p>考察: 今後の気象条件から予想発生時期はやや遅、巡回調査結果および一般圃場での発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・昨年8月第2半旬~10月第6半旬)では、誘殺数は水田位置6頭(平年66.0頭)と少、畑位置871頭(平年2668.4頭)と少 (-)</p> <p>考察: 予察灯の状況から越冬成虫数は少ないと考えられるため、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	イネミズゾウムシ	遅	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・4月第1半旬~5月第4半旬)では、越冬成虫の最盛日は5月14日(平年5月6日)と遅、誘殺数は12頭(平年49.6頭)と少 (発生時期+、発生量-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発生圃場率45.5%(平年66.7%)と少、被害株率13.0%(平年27.4%)と少、株当り虫数0.04頭(平年0.05頭)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 予察灯の状況から幼虫の予想発生時期は遅、予察灯、巡回調査結果、一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや少と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬、無防除)では、新葉発病率86.5%(平年39.0%)と多(+)、発病果率0%(平年0.2%)と平年並(±)(+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、旧葉発病度0(平年0.04)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 巡回調査結果および一般圃場の発生状況を重視して現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	黒点病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (—)</p> <p>2) 巡回調査圃場では、昨年10月上旬の果実発病度7.6(平年13.1)とやや少 (—)</p> <p>3) 感染源となる枯枝は平年並の状況 (±)</p> <p>考察：現在の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (—)</p> <p>2) 県予察圃(新甘夏、無防除)における新葉での初発は、5月26日現在未確認(平年5月13日)と遅 (—)</p> <p>3) 県予察圃(5月中旬、新甘夏、無防除)では、新葉発病率0%(平年1.7%)と平年並 (±)</p> <p>4) 巡回調査圃場(5月第3週)では、旧葉発病率は温州みかんでは0%(平年0.3%)と平年並(±)、中晩柑類では2.7%(平年9.3%)とやや少(—)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：温州みかんでは、現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では、現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬)では、100葉当り寄生頭数は、無防除区20頭(平年29.9頭)とやや少(—)、慣行防除区2.2頭(平年0.5頭)と多(+) (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発生圃場率23.1%(平年40.0%)と少、旧葉寄生率1.1%(平年12.2%)と少、寄生頭数0.01頭/葉(平年1.25頭/葉)と少 (—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～平年並(概して少) (—)</p> <p>考察：現在の発生量は少と考えられますが、今後の気象を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (+)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は少～平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察：一般圃場の発生状況を重視して現状の発生量は平年並と考えられ、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	黒星病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (—)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病葉率0%(平年0.3%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (—)</p> <p>考察：一般圃場の発生状況を重視して現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ハダニ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、寄生葉率0.2%(平年0.02%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少 (—)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ブドウ	べと病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (—)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病葉率は0%(平年0%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	—	多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:5月1日～20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 582頭(平年 625.7頭)と平年並(±)、ツヤアオカメムシ 2738頭(平年 1571.2頭)と多(+) (+)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:5月1日～25日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 3956頭(平年 175.7頭)、ツヤアオカメムシ 191頭(平年 28.6頭)といずれも多 (+)</p> <p>3) フェロモントラップ(5月1日～24日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で 88頭(平年 126.5頭)と少、中間地(津市白山町二本木)で 343頭(平年 228.6頭)と多、平地地(松阪市嬉野川北町)で 244頭(平年 56.2頭)と多 (+)</p> <p>4) 巡回調査圃場(5月第3週、カンキツ圃場)では、叩き落とし虫数 1.6頭(平年 0.26頭)と多 (+)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は多 (+)</p> <p>考察：現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (—)</p> <p>2) 県予察圃(一番茶期)では、病斑葉数0枚/m²(平年0枚/m²)と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病葉数0.1枚/m²(平年0.1枚/m²)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (—)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	もち病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (—)</p> <p>2) 県予察圃(一番茶期)では、病斑葉数0枚/m²(平年0枚/m²)と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病葉数0枚/m²(平年0枚/m²)と平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	カンザワハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬)では、寄生葉率4.0%(平年3.8%)と平年並、寄生虫数0.3頭/葉(平年0.1頭/葉)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、寄生葉率3.9%(平年4.4%)と平年並、寄生虫数0.06頭/葉(平年0.1頭/葉)とやや少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノホソガ	—	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第4半旬～5月第4半旬)では、誘殺数110頭(平年274.3頭)と少 (—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、巻葉数0枚/m²(3年平均0.1枚/m²)と少の傾向 (—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (—)</p> <p>考察：現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第4半旬～5月第4半旬)では、捕殺数3頭(平年4.7頭)とやや少 (—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、たたき落とし虫数0.4頭(平年1.1頭)と少 (—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (＋)</p> <p>2) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第4半旬～5月第4半旬)では、捕殺数224頭(平年1268頭)と少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、たたき落とし虫数0.8頭(平年5.0頭)と少 (－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 一般圃場では、本圃での発生量は少～平年並(概してやや少)、親株床でも同様の傾向 (－)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (－)</p> <p>2) 一般圃場では、現在、親株床で目立った発生はなし (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (＋)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第6半旬～5月第5半旬)では、誘殺数6頭(平年172.0頭)と少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、被害葉率0%(平年0.1%)と平年並に少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
野菜共通	コナガ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月22日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並か少ない予想 (＋)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第6半旬～5月第5半旬)では、誘殺数65頭(平年185.8頭)と少 (－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は微～平年並(概してやや少) (－)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除が必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス「果樹カメムシ類について」

◆果樹カメムシ類とは？◆

果樹カメムシ類とは、果樹を加害するカメムシの総称です。三重県で重要な加害種は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの3種です(図1)。



図1 三重県の主な果樹カメムシ類
左から、チャバネアオカメムシ、
ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

◆生態と被害◆

成虫の寿命は約1年です。7月下旬から新成虫が羽化し、成虫で越冬し、6月から産卵します(図2)。

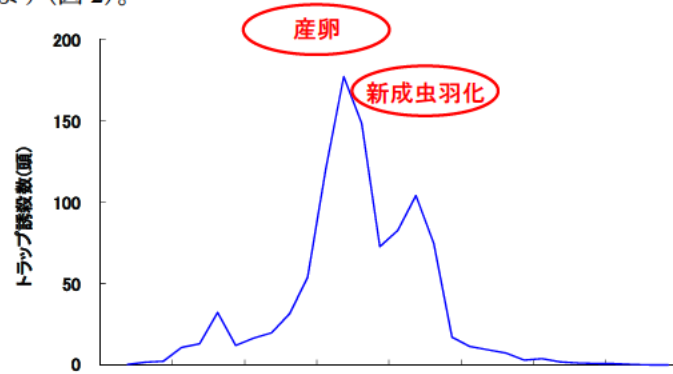


図2 チャバネアオカメムシのフェロモントラップへの
 平年飛来数(松阪市嬉野川北町)
 ※平年は過去10年(2004~2013年)の平均値

カメムシにとって、果樹は決して好物とするエサではありません。発生量が多くても山にヒノキやスギの毬果など好物のエサがあれば、果樹園への飛来は少なくなります。しかし、これらのエサが不足している場合は、果樹園へ飛来し、加害を行います。

モモやビワは5~6月に、カキは6~10月に、カンキツは9~10月に加害を受けま
 す。ナシは、5月から収穫期までの長期間加害を受けます。



図3 ナシの加害痕
吸汁部分が凹む

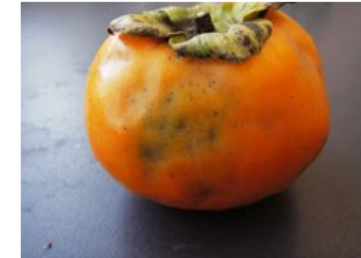


図4 カキの加害痕
吸汁部分がスポンジ状となる

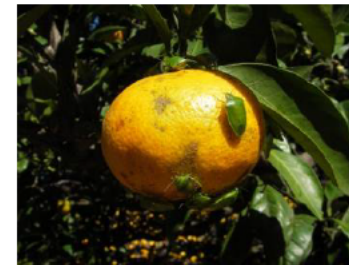


図5 カンキツへの飛来



図6 カメムシの吸汁によるカンキツの落果被害(無防除園)

◆防除対策◆

- 1) 降雨がなく気温の高い夜に飛来が多いので、夜間の街灯に注意したり、圃場を見回るなどして、早期発見に努めてください。山林に近い圃場では特に注意が必要です。
- 2) 薬剤散布はカメムシ類の飛来を確認してから実施してください。
- 3) 果樹カメムシ類は夕刻から活発に飛翔するので、朝夕の薬剤散布が効果的です。近隣圃場で調整し、広い範囲で散布日を合わせて一斉防除することにより効果が高くなります。

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 26 年 5 月 22 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、低気圧や前線の影響が平年に比べ小さく、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多い見込みです。期間のはじめは、暖かい空気に覆われやすく、気温は平年より高い見込みです。

1 週目 5 月 24 日～ 30 日	期間の前半は高気圧に覆われて概ね晴れますが、後半は気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 4.2 日・2.0 日
2 週目 5 月 31 日～ 6 月 6 日	低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べて晴れの日が多い見込みです。	同 4.0 日・1.9 日
3～4 週目 6 月 7 日～ 20 日	低気圧と高気圧が交互に通るでしょう。平年に比べて曇りや雨の日が少ないでしょう。	同 6.2 日・5.4 日

東海地方週間天気予報 (平成 26 年 5 月 26 日 16 時 30 分 名古屋地方気象台発表)

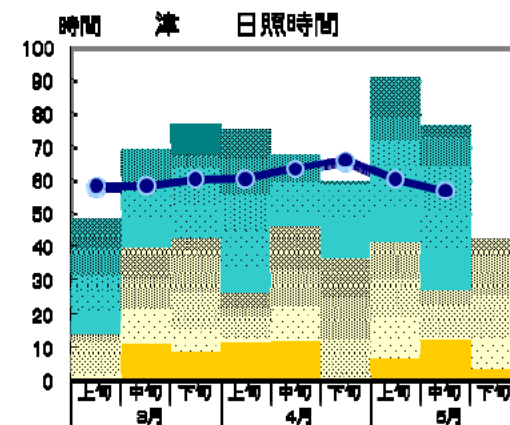
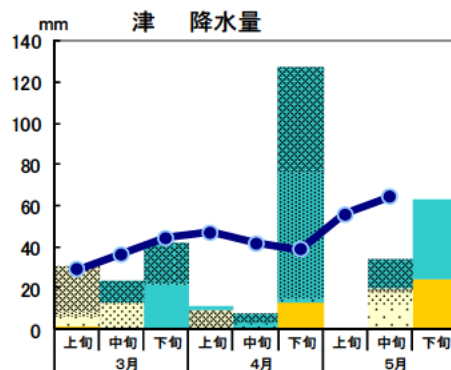
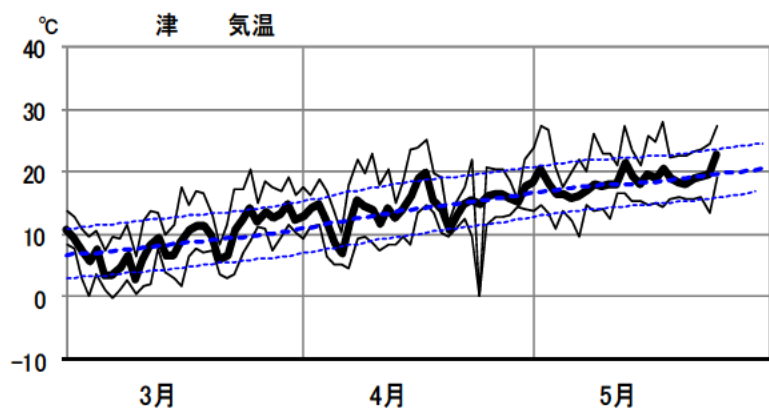
予報期間 5 月 27 日～6 月 2 日

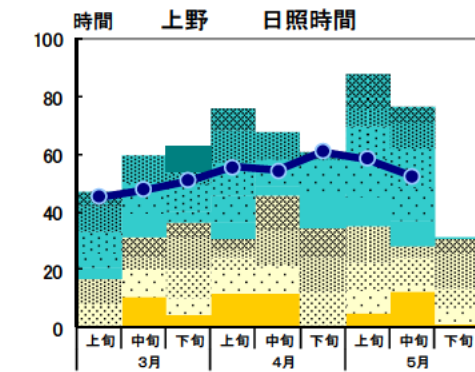
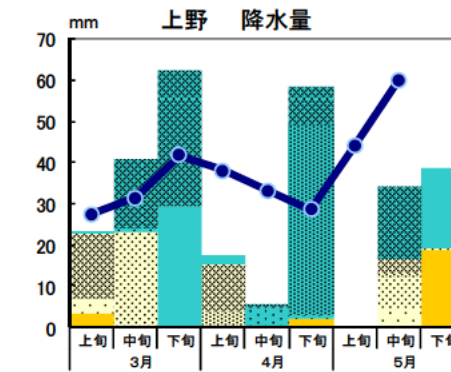
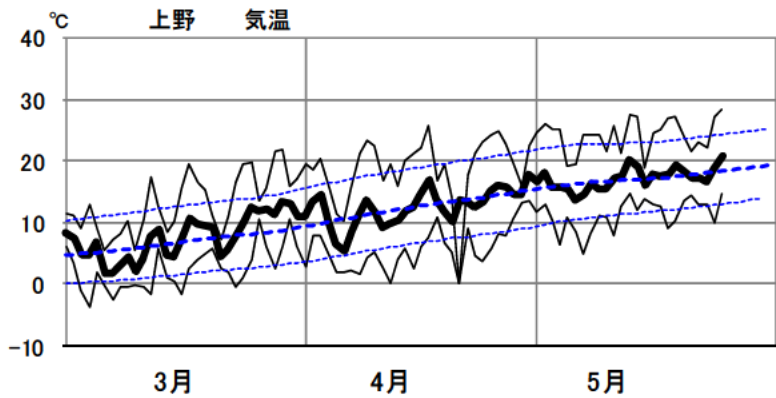
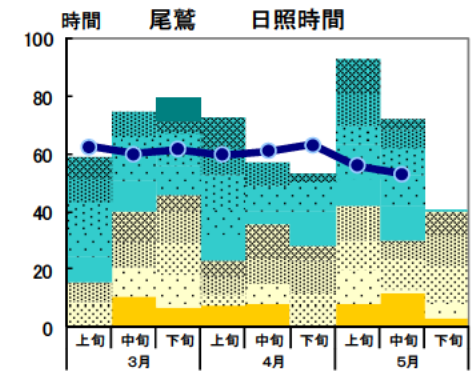
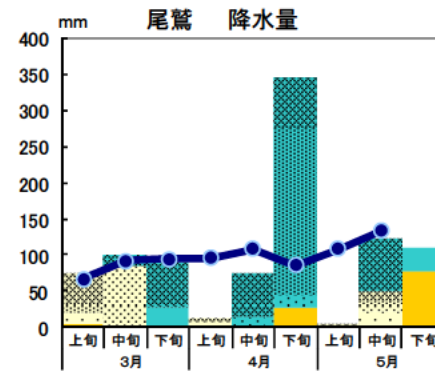
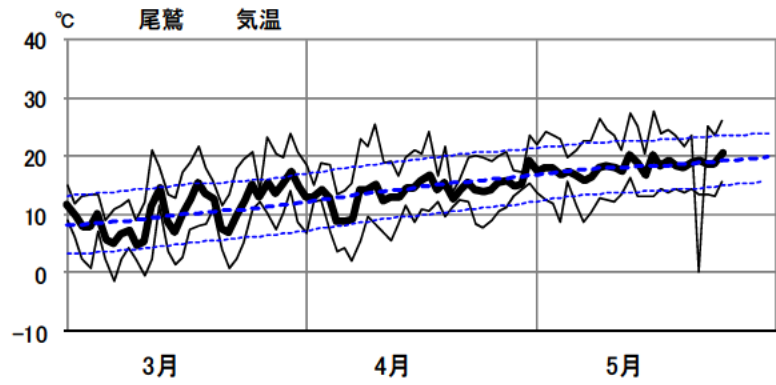
向こう一週間は、期間の中頃にかけて高気圧に覆われて概ね晴れますが、終わりは気圧の谷の影響で雲が広がりやすいでしょう。

最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より高く、かなり高くなる所もある見込みです。

降水量は平年並か平年より少ないでしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (5 月 21 日まで)





- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - - - 平年平均
 - - - 平年最高
 - - - 平年最低

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月24日(木)	第2回 5月29日(木)(今回)
第3回 6月26日(木)	第4回 7月24日(木)
第5回 8月28日(木)	第6回 10月23日(木)
第7回 3月19日(木)	

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書 **NEW**

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/work/ipm/main.htm>